

齋藤文紀特任教授(エスチュアリー研究センター)が、
地球惑星科学連合(JpGU)からフェローの称号を受賞

記者会見資料

令和8年7月17日



齋藤文紀 特任教授（エスチュアリー研究センター）が、2026年度の日本地球惑星科学連合フェローに選ばれ、2026年JpGU大会において令和8年5月27日に、授賞式が執り行われました。

日本地球惑星科学連合フェロー制度は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（Japan Geoscience Union; 以下JpGU）が公益事業の一環として行うもので、地球惑星科学において顕著な功績を挙げ、あるいは日本の地球惑星科学の活動に卓越した貢献をされた方をJpGUにおいて高く評価し、名誉あるフェローとして処遇することを目的として設置されているものです。

JpGUは、地球惑星科学を構成するすべての分野及びその関連分野をカバーする研究者・技術者・教育関係者・科学コミュニケーター、そのほか地球惑星科学分野に関心を持つ学生や一般市民の方々からなる学術団体です（JpGUホームページより）。
（個人会員13,000名以上 2026年7月現在、団体会員51学協会 2025年7月現在）

JpGUは、2005年秋の日本学術会議の改革に対応して、細分化・分散化している地球惑星科学関連学協会を束ねる窓口組織として発足しました。2008年12月1日には一般社団法人となり、2011年12月1日にはさらに発展し、公益社団法人日本地球惑星科学連合として新たなスタートを切りました。（JpGUホームページより）

JpGUフェローは、今年度の受賞者6名を含めてこれまで140名が受賞しています。中国・四国・九州地区からは9名が受賞しており、島根大学からは初めての受賞になります。

受賞理由

海陸境界域における堆積作用と環境変動に関する研究による貢献

主な業績

齋藤博士は、陸海境界域の地層形成や環境変動の研究に顕著な業績を挙げている。地球表層における物質循環と氷河性海水準変動の視点に立ち、堆積地質学、地形学、第四紀学の手法を統合した新しい沖積層研究を展開し、国際的に高く評価されている。群列コアとコア堆積物の放射性炭素年代の高密度測定を組み合わせることで沖積層に同時空間面を描き、海水準変動と地層形成の関係を解明する手法を確立した。その成果は、黄河、揚子江、メコン川等のアジアのメガデルタを対象とした自身の研究に結実した。また、一連の研究を通じ、国際的な人材育成にも貢献した。近年は、人間活動のホットスポットとしてのデルタの脆弱性に関する国際共同研究を推進している。国際第四紀学連合大会の日本初招致を実現し、大会委員長として日本の成果を世界に発信し、日本地球惑星科学連合大会委員長や学協会の会長を歴任するなど、学術交流の発展にも特筆すべき貢献を果たしている。（JpGUのホームページより）

関連URL：日本地球惑星科学連合（JpGU）公式HP

紹介ページ（和文）：<https://www.jpгу.org/jpgufellow/2026-yoshiki-saito/>

紹介ページ（英文）：<https://www.jpгу.org/en/jpgufellow/2026-yoshiki-saito/>

【2026年度日本地球惑星科学連合フェロー】<https://www.jpгу.org/jpgufellow/>

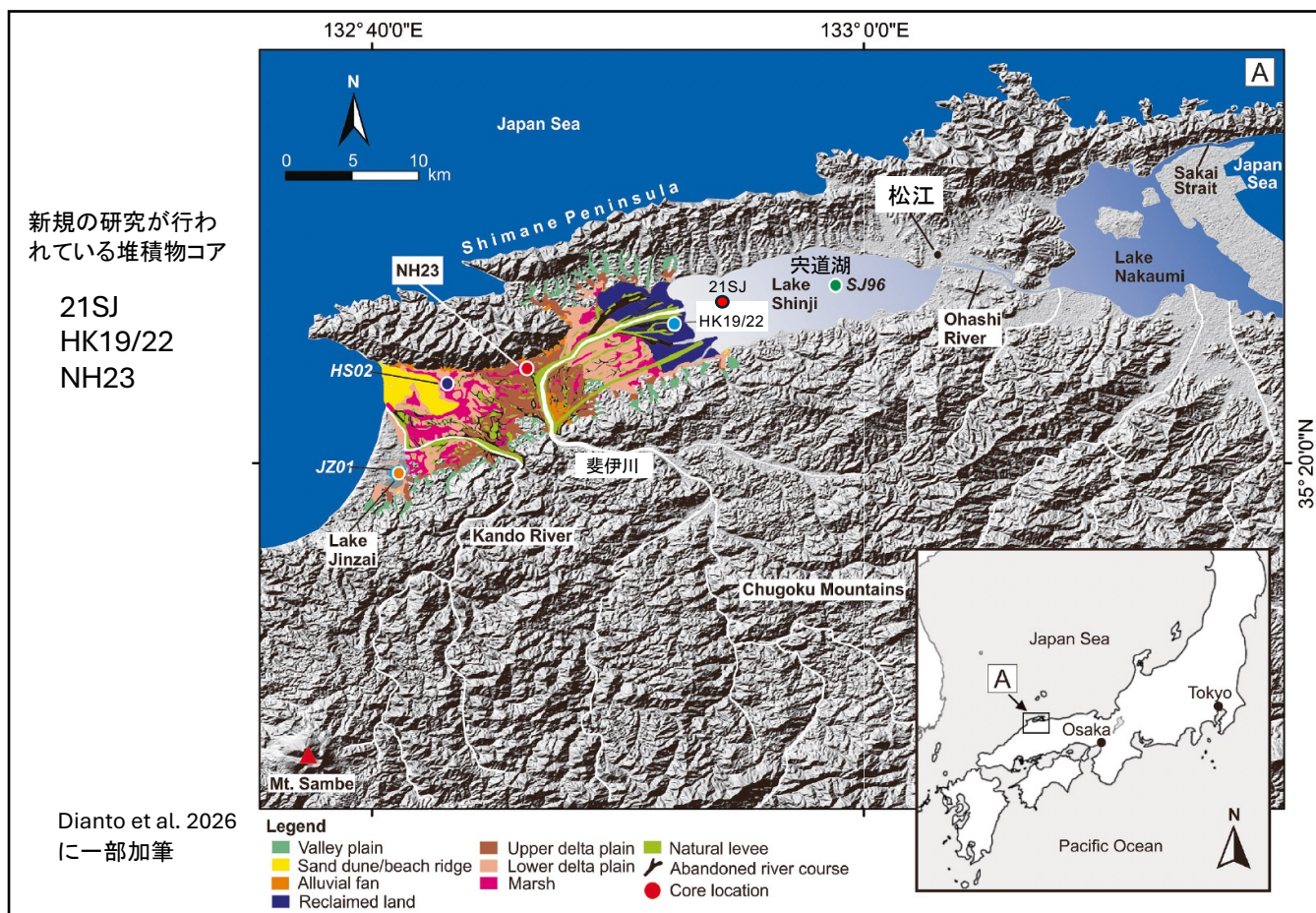


齋藤文紀特任教授は、これまでに黄河、揚子江（長江）、紅河（ホン河）、メコン河、チャオプラヤ河、ゴダバリ河、クリシュナ河などの河川がつくるデルタ（三角洲）について、デルタ平野の沖積層ボーリング試料の分析から詳細な地下構造と形成史を明らかにし、これらの地域における基本層序を確立してきました。

齋藤特任教授は、2016年に島根大学に着任後に2019年から本格的に出雲平野（簸川平野）の調査を開始し、高い時間分解能の出雲平野の地下断面を明らかにしてきています。これらの結果、これまで江戸時代の1635/1639 年と言われてきた斐伊川の東流（斐伊川が現在の宍道湖に流入するようになった時期）については、1200–1300年頃であることが明らかとなっています。従来よりも400年も前に東流が起っていたこととなります（Nakamura et al., 2023; Dianto et al., 2025）。また斐伊川と神戸川がつくる複合デルタが、縄文海進によって6000–7000年前に広く広がった内湾（古宍道湾）を分断し、島根半島に3700–3800年前に到達したことが明らかになっています（Dianto et al., 2025, 2026）。

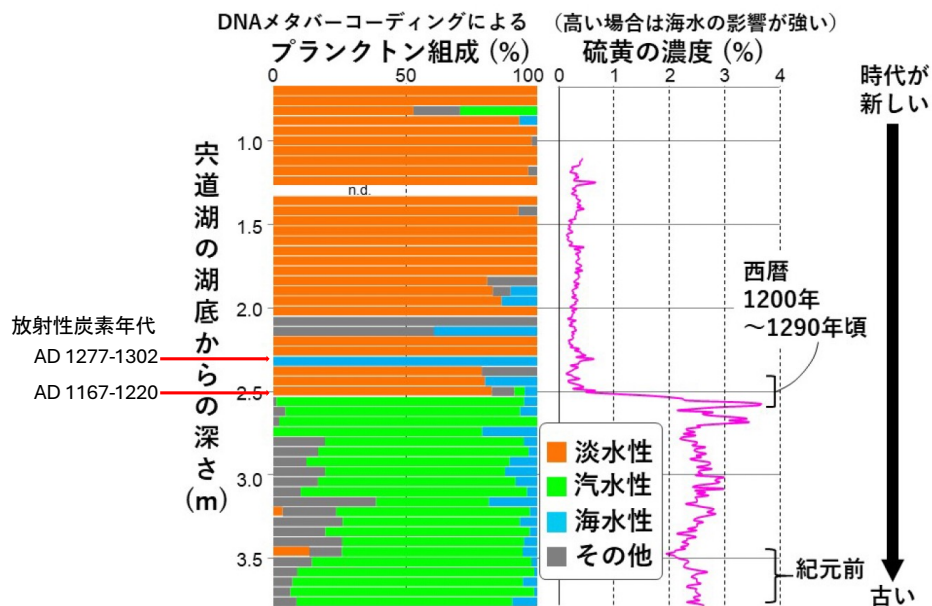
出雲平野から宍道湖地域の過去 1 万 2 千年間にわたる詳細な歴史の研究が現在進められています。

5



6

宍道湖湖底から採取されたコアの分析結果

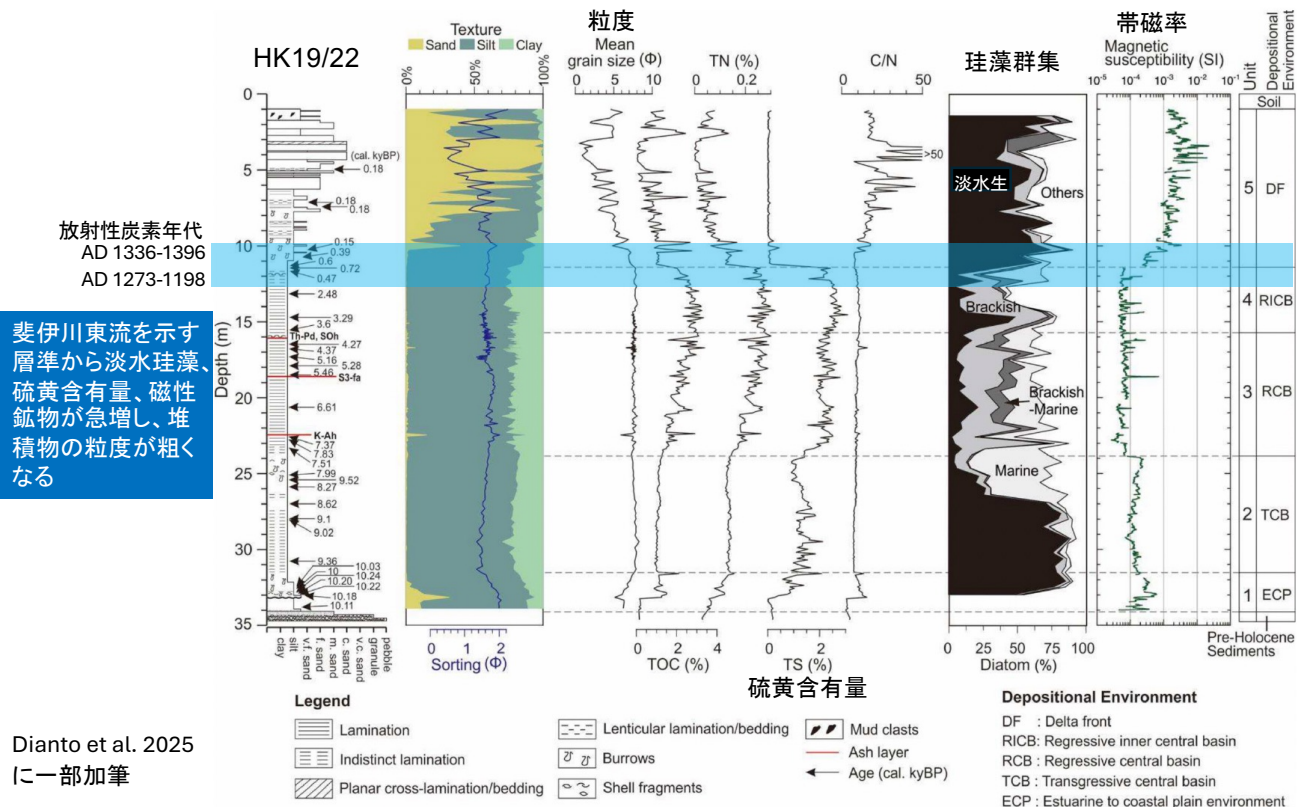


Nakamura et al., 2023のプレスリリース資料より

https://www.esrec.shimane-u.ac.jp/_files/00327206/20231213release.pdf

7

出雲市斐川町から採取されたコアの分析結果



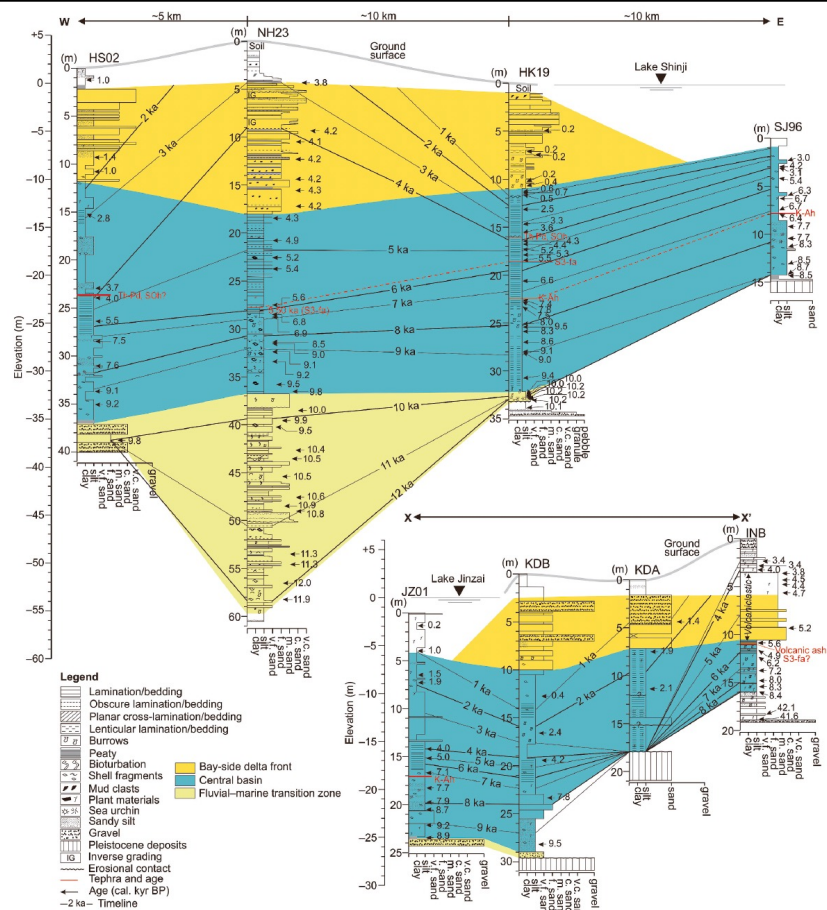
8

出雲平野から得られたボーリング試料の分析による地下断面と同時間線

12000年前(12ka)以降の変化を1000年単位で読み取ることができる

NH23コアは出雲平野の島根半島に近い、西林木町において採取された試料で、表層の年代が3800年前(3.8ka)であることから、斐伊川と神戸川の複合デルタ(三角州)がほぼこの時に島根半島に到達していたこと、広がっていた古宍道湾が、神門水海と宍道湖に分断されたことを示している

Dianto et al. 2026
に一部加筆



9

主な研究成果

林田明・齋藤文紀・瀬戸浩二・香月興太・服部真也・八木涼太, 2022. 宍道湖西岸で採取された完新世堆積物(HK19コア)の残留磁化と磁気特性: 汽水域の古環境復元への示唆. *Laguna (汽水域研究)*, 29, 75-86. (2022. 03)

瀬戸浩二・香月興太・中西利典・入月俊明・三浦伊織・林田 明・齋藤文紀, 2023. 出雲平野東部から採取したHK19コアの堆積層と年代. *Laguna (汽水域研究)*, 30, 47-60. (2023.09)

Nakamura, Y., Ogiso-Tanaka, E., Seto, K., Ando, T., Katsuki, K., Saito, Y., 2023. DNA metabarcoding focusing on the plankton community: an effective approach to reconstruct the paleo-environment. *Scientific Reports*, 13, 48367. (2023.12)

Dianto, A., Katsuki, K., Sakai, T., Seto, K., Nakanishi, T., Tanaka, T., Miura, I., Hayashida, A., Irizuki, T., Sampei, Y., Tsujimoto, A., Watanabe, M., Ando, T., Nakamura, Y., Saito, Y., 2025. Holocene coastal evolution and paleogeography of the Izumo Plain and Lake Shinji, Western Japan: incised-valley fills in a wave-dominated estuarine environment. *Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology*, 670, 112941. (2025.07)

Miura, I., Katsuki, K., Nakanishi, T., Seto, K., Saito, Y., 2025. Changes in the Holocene environment in the Lake Shinji, Shimane, western Japan, based on siliceous microfossil analysis. *Quaternary International*, 749, 10994. (2025.11)

Dianto, A., Seto, K., Katsuki, K., Sakai, T., Nakanishi, T., Hayashida, A., Irizuki, T., Sampei, Y., Tsujimoto, A., Watanabe, M., Ando, T., Nakamura, Y., Saito, Y., 2026. Estuarine delta evolution influenced by sea-level change and volcanic activity during the Holocene: A case study of the Izumo Plain in western Japan. *Marine Geology*, 497, 107780. (2026.07)